

山梨大学教育学部附属教育実践総合センター センターだより第221号(通巻第288号)

2026年2月3日 発行

山梨大学教育学部

附属教育実践総合センター

TEL 055-220-8325、FAX 055-220-8790

E-mail: edjissen-as@yamanashi.ac.jp

URL: <https://www.edu.yamanashi.ac.jp/aepc/>

※このセンターだけで紹介した研究会、研修、教育フォーラムに関するお知らせは、改変しない限り、自由に複写、配布していただいて結構です。

- 令和7年度 山梨県内高等学校における情報科授業の指導・助言の報告
 - 令和7年度 総合教育センター研修への講師派遣の報告
 - 第3回 山梨大学やまなし情報教育推進室フォーラムのお知らせ
 - やまなし情報教育推進室「はじめての生成AI vol.1」
(不定期で生成AIに関する情報を届けします。)
 - 2・3月の主な行事予定

これまでのセンターだよりの一部は、<https://www.edu.yamanashi.ac.jp/aepc/2306/>で見ることができます

令和7年度 山梨県内高等学校における情報科授業の指導・助言 報告

1. 実施一覧（授業視察・研究協議）

- 5月29日（木）県立中央高等学校
- 6月9日（月）県立韮崎高等学校
- 7月1日（火）県立ひばりが丘高等学校
- 7月10日（木）県立富士北陵高等学校
- 7月17日（木）県立都留興譲館高等学校
- 9月16日（火）県立日川高等学校
- 10月9日（木）県立白根高等学校
- 10月16日（木）県立甲府南高等学校

2. はじめに

本年度は、県内の情報科授業を対象に、授業視察と研究協議を組み合わせた指導助言を継続的に実施しました。各校では、授業参観に先立って校長先生との面談の機会も設けていただき、学校の特色や生徒の実態、今年度の取組の方向性を共有した上で、授業と研究協議に臨むことができました。

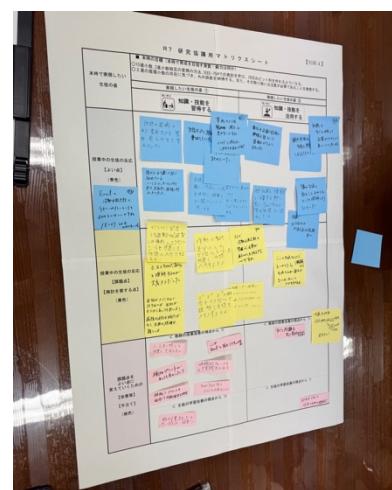
3. 本年度の総括

（1）授業改善が「授業を起点に回る」形として進んでいます

授業視察の後に研究協議を行い、授業者のねらいと授業中に見取れた生徒の学びを照らし合わせながら、授業の工夫や改善点を具体化して次の授業へつなげる流れが、県内で着実に積み重ねられていることを確認しました。授業を公開し、協議の場で工夫を言語化し合うことは、情報科教育の質を高めていく上で大きな支えになっていると感じます。

（2）「目の前の生徒に合った授業」を組み立てる視点が、改めて共有されました

学校の特色により、生徒の学習経験や興味関心、学力差、授業中の反応は大きく異なります。だからこそ、日々生徒を見ている先生方は、目の前の生徒に合った授業をつくることができるはずです。授業改善は、一般的な正解を探すことではなく、その学校、その学級、その時間の生徒に合わせて、授業を設計し直していく営みです。研究協議は、そのための視点を増やし、授業者の意図を磨き上げる貴重な場になります。今後も「生徒の姿から出発して授業を組み立てる」ことを、県内で一層大切にしていきたいと考えます。



(3) 受験教科となった今こそ、実習の価値を丁寧に位置づけたい

情報が受験教科として位置づく中で、知識の整理や問題演習に目が向きやすくなる場面もあります。一方で、情報科で育てたい力は、知識の理解に加えて、情報技術を使って試し、結果を読み取り、説明し、改善につなげる力です。訪問した授業では、実習を通して理解を深め、学びを確かめる工夫が随所に見られました。



実習は、操作を覚えること自体が目的ではなく、目的をもって試行錯誤し、判断し、説明する学びの時間です。こうした経験が積み重なることで、初見の課題に対しても考えて対応できる力につながっていくと考えます。今後も、生徒の実態に合わせた実習中心の授業づくりが、県内でさらに広がっていくことを期待しています。

4. おわりに

本年度の教科訪問を通して、授業視察と研究協議を重ねながら、授業を起点に改善を積み重ねていく意義を改めて確認しました。情報科は、生徒の実態や学習環境によって授業の組み立て方が大きく変わる教科であり、その違いに応じて授業を調整し続ける現場の工夫に、多くを学びました。また、受験教科化の流れの中にあっても、実習を中心据え、試行錯誤と結果の解釈を通して理解を深める授業づくりが、学力の確かな定着につながることを、具体的な実践から実感しました。

加えて、今年度の教科訪問が円滑に実施できたのは、日程調整や当日の運営を担当してくださった指導主事の先生方、研究授業を準備し公開してくださった授業者の先生方、研究協議に参加してくださった先生方のご協力があってこそです。改めて感謝申し上げます。本年度の議論で得られた視点が、次の授業改善へ着実につながっていくことを願っています。



令和7年度 総合教育センター研修への講師派遣 報告

【研修1】高特 情報 授業づくり研修会（研修番号 286）

- 実施日：令和7年8月6日（水）
- 時間：9:25～16:30（途中お昼休憩あり）
- 対象：高等学校で情報科を担当する教員
- 会場：山梨県総合教育センター
- 講師体制：
山梨大学 准教授 稲垣俊介
東京都高等学校情報教育研究会（東京都立立川高等学校 指導教諭 佐藤義弘、東京都立小平高等学校 指導教諭 小松一智）
※佐藤先生・小松先生は授業実践紹介と体験活動の設計をご担当

【研修2】ICT活用実践研修会Ⅱ 校務等における生成AIの活用（研修番号 612）

- 実施日：令和7年8月18日（月）
- 時間：9:15～12:15
- 対象：小中高特の全ての教科の教員
- 会場：山梨県総合教育センター
- 講師：山梨大学 准教授 稲垣俊介

報告

本年度は、山梨県教育委員会総合教育センター主催研修として、情報教育（授業改善）と校務DX（生成AI活用）に関わる2件の研修に講師として協力しました。両研修に共通して重視したのは、知識の説明に留めず、受講者が自校の実践に接続して次の行動を具体化できることです。そのために、根拠にもとづく整理（講義）と、実装に向けた検討（体験・協議）を組み合わせ、研修の学びが理解で終わらず、現場での改善へつながりやすい構成としました。

1. 高特 情報 授業づくり研修会（8/6）

本研修では、共通テスト「情報I」を共通の参照枠として、授業で育てたい力を具体的な課題場面に即して整理し直しました。狙いは、試験対策の技法を増やすことではありません。出題が要求する思考・判断・表現を手掛かりに、授業設計と評価の焦点を明確化し、日々の授業改善の優先順位見えやすくすることです。

講義では、条件を正確に把握して読み解く力、図表と文章を統合して整理する力、プログラムの振る舞いを追う力（トレース）、統計データの読み取りにおける相関と因果の区別などを、授業改善の観点として整理しました。これらは、知識の量だけでなく、学習活動の経験の質に強く支えられる力でもあります。したがって、説明を増やすことよりも、実習・探究の中でどのように段階づけ、どこでつまずきを想定し、どのように支援し、評価まで整合させるかが重要であることを共有しました。

協議の中では、入試（共通テスト）への不安が率直に語られる場面がありました。一方で、その不安を「机上の対策」へ直結させるのではなく、東京都立高校の実践に触れることで、実習中心の授業を丁寧に積み上げることが結果として入試にもつながる、という方向へ議論が整理されていきました。情報Iの学力は、暗記中心の学習よりも、条件整理、試行錯誤、データの読み取りなどの活動の質に依存するためです。会場の対話が、受験不安を焦りとして抱え込むのではなく、授業改善の論点（活動設計・支援・評価）へ変換し、具体的な授業づくりに返していく見通しを生んだ点は、本研修の価値を端的に示していると捉えています。

後半は、東京都立立川高等学校・東京都立小平高等学校の先進の授業実践を素材に、受講者が授業を体験しながら、狙い、改善点、自校への転用の可能性を言語化する協議を中心に進めました。外部実践の紹介を見学で終わらせらず、授業設計の意図と運用上の工夫まで検討対象にすることで、自校で試すなら何から始めるか、どこをどう変えると効果が出やすいかを、具体案として持ち帰りやすい構成となりました。概ね 10 名程度の規模だったこともあり、参加者同士の対話が深まりやすく、現場課題に即した具体的なやり取りを十分に確保できた点も、研修効果を高めた要因です。

試験問題から見える今後の課題



- 計算・プログラム読解に時間がかかる
- 統計リテラシー不足への対応
- ICT活用教材の充実が課題

実習中心の実践

2025年度共通テスト「情報I」から考察

1. 2025年度共通テスト「情報I」の概要
2. 大問・設問別に確認
3. 「情報I」のテストを踏まえて考える

2. ICT 活用実践研修会 II 校務等における生成 AI の活用 (8/18)

本研修は、ChatGPT や Copilot 等の生成 AI を校務等に活用するにあたり、できることと安全に使う判断軸を同時に身につけることを目的として、理論と実践の半日研修として実施しました。学校現場で生成 AI を扱う際には、利便性だけでなく説明責任と情報管理が不可欠です。そこで冒頭に、誤情報生成（ハルシネーション）とプライバシーの観点を明確にし、生成物の確認と情報の取り扱いを前提とした活用姿勢を共有しました。便利さを強調するだけでなく、安心して試行できる土台を先に整えることを重視しました。

演習では、学校現場で転用しやすい題材を扱い、生成 AI を業務プロセスに落とし込むイメージが持るように構成しました。具体的には、保護者会案内

なお、研修中のやり取りでは、共通テストを材料にしつつも授業改善の観点として整理できることで、授業で何を重点化するかが具体化しやすい、実習中心の設計へ視点が整理される、といった受け止めが共有されていました。先進的な授業実践の体験と協議を通して、自校へ持ち帰る観点が明確になる流れが作れたことは、今後の授業改善に向けた前向きな契機になったと考えます。



注意点

- ハリシネーション
- プライバシー

の文案作成（条件設定と文体調整）、学級通信の下書き作成（箇条書きから文章化）、作成文書を教材化する展開（選択問題と解答解説の作成）などを段階的に体験します。いずれも日常的に発生する校務・授業準備の作業であり、生成 AI の活用が時短に留まらず、文章の質の底上げや作業の抜け漏れ低減にもつながることを、具体的な作業として理解しやすい題材です。

さらに、生成 AI を文章を作る道具として終わらせず、どの工程で、どのような条件を与え、どの観点で確認するかという運用の型まで意識できるようにしました。会場では、生成 AI にほとんど触れたことがない状態でも、まず試せる場面が見えた、という趣旨の受け止めが共有され、研修が「使い始める契機」として機能したことが確認できました。定員 50 名を大きく上回る申込があったことからも、関心の高まりに加えて、校務での具体的な使い方や留意点を体系的に学ぶ機会が求められている状況がうかがえます。

また、本研修は校務の効率化に焦点を当てつつも、最終的には「授業（校務）で生成 AI をどのように使ってみるか」「自分が考えた利用法を共有する」という設計になっており、校務に閉じず授業実践へ接続していく入口にもなっています。今後は、教員の校務利用だけでなく、児童・生徒にどのように生成 AI を使わせていくか（何を任せ、何を任せないか、どのように検証させるか、情報の扱いをどう指導するか）という観点を、情報教育の授業づくりと連動させて検討していくことが重要になります。8/6 の授業改善（実習中心・探究中心）と 8/18 の生成 AI 活用は、現場の課題設定と学習活動の設計という点で相互に接続可能であり、両研修の成果を一体として発展させやすいと考えます。

研修後の波及

8/6 については、研修で共有した授業改善の観点を軸に、各校での単元設計や評価の見直し、実習中心の学習活動の充実へつなげることが期待されます。8/18 については、研修を入口として、校内での小さな試行（文案作成、要約、教材化等）を積み重ね、活用事例を共有しながら安全な運用の型を整えていく展開が見込まれます。加えて、授業での生成 AI の扱い方（児童・生徒に求める確認、根拠、引用、プライバシー配慮など）を情報教育の授業づくりに位置づけていくことで、校務 DX と学びの質向上を同時に進める展開が可能になると考えます。

教員の役割の変化

- 知識だけを教えるのではい
- 学ぶのは子ども自身である
- 人が人を教えるということ

【研修3】ICT活用実践研修会I 「思考スキル」「思考ツール」の活用（研修番号 611）

- 実施日：令和7年7月31日（木）
- 時間：9:15～12:15
- 対象：小中高特の教員
- 会場：山梨県総合教育センター

講師：山梨大学 准教授 三井一希

報告

本研修は、思考力の育成を図る一つの手立てとして、「思考スキル」および「思考ツール」への理解を深め、その具体的な活用方法を学ぶことを目的に実施しました。

研修の冒頭では、「考える」ことをテーマとしたアイスブレイクを行い、その後、情報活用能力に関する講義を実施しました。続く演習では、思考スキルや思考ツールを実際に用いる活動を通して、活用の具体的なイメージをもってもらうことをねらいとしました。後半では、授業アイデアを考えもらい、受講者同士で共有・ブラッシュアップする活動も取り入れました。

思考スキルとは、「どのように考えるか」に関わるスキルであり、「多面的にみる」「比較する」「分類する」など、約20種類あるとされています。これらの思考スキルの発揮を支援するものが思考ツールであり、「ベン図」や「フィッシュボーン図」などが代表的です。思考スキルや思考ツールの活用は、特定の教科に限定されるものではなく、教科等横断的に活用していくことが重要であるとされています。

思考ツールは紙媒体でも使用できますが、クラウドツールを活用することで、即時共有や他者の考えの参照が可能となり、より深い学びにつながることが期待されます。本研修においても、1人1台端末の環境下で、こうした特長を生かした活動を行いました。

本研修を通して、受講者が思考スキルおよび思考ツールへの理解を深め、今後の日常的な授業実践に積極的に取り入れていくことを期待したいと思います。

【研修4】小中高特 プログラミング教育実践研修会「MESH」を活用した実践（研修番号 603）

- 実施日：令和7年7月31日（木）
- 時間：13:30～16:30
- 対象：小中高特の教員
- 会場：山梨県総合教育センター
- 講師：山梨大学 准教授 三井一希、県立科学館事業課 雨宮晃己

報告

本研修は、プログラミングツール「MESH」を活用した実践事例を通して有効な活用方法を学ぶとともに、より実践的な指導力の向上を図ることを目的として実施しました。

研修の前半では、県立科学館事業課の雨宮様より、MESHの基本的な使い方に関する講義および演習が行われました。本研修で初めてMESHに触れる受講者もいましたが、短時間で操作に慣れ

る様子が見られました。直感的に操作できるツールであるからこそ、実際に活用する中で使い方を身につけていくことの重要性を体感していただけたものと考えます。

研修の後半では、模擬授業形式で「目が不自由な友達が転校してきました。教室内で快適に過ごせる工夫を考え、その仕組みを MESH で実現させましょう」という課題を設定し、探究的な学びの中で MESH の活用を体験していただきました。プログラミングツールがない場合、アイデアは机上の空論にとどまりがちですが、ツールを活用することで、アイデアを具体的な仕組みとして形にすることが可能になります。受講者からは、ドアの前に人感センサーを設置し、人が通ると「ここは〇年〇組です」と音声で案内する仕組みなど、実用性の高いアイデアが提案されました。

プログラミング教育では、体験的な活動を通して論理的思考力を育成するとともに、プログラムの働きのよさや、情報社会がコンピュータをはじめとする情報技術によって支えられていることに気づくことが求められています。本研修が、こうした資質・能力を育むための授業イメージを具体的に持つ契機となることを期待しています。

第3回 山梨大学 やまなし情報教育推進室 フォーラム

教育の情報化の 現在とこれから

参加費
無料

2026年 3月 9日(月)
17:00 - 19:00

対面とオンラインのハイフレックス方式 (見逃し視聴OK)

<対面会場>山梨大学甲府キャンパス J号館5階 A会議室

<オンラインの接続先>申込者に通知します

*申込者に限り 見逃し視聴用のURLを送付

小・中・高の情報活用能力の系統性を考える

次期学習指導要領の改訂を見据え
いますべきこと、これから求められること

お申込みはこちら▼



(締切) 3月5日まで

フォーラムの内容

- *やまなし情報教育推進室の活動紹介
- *講師（佐藤 和紀 氏）の講演
- *情報活用能力の育成に関する小・中・高の実践発表
- *講師とパネリストによるディスカッション他

パネリスト

- 天野 友理 (甲州市立祝小学校 教諭)
青柳 敬大 (山梨大学教育学部附属中学校 教諭)
山本 一博 (山梨県立富士北稜高等学校 教諭)

進行 三井 一希 (山梨大学教育学部 准教授)

講師

佐藤 和紀 氏

信州大学 学術研究院
教育学系 准教授



文部科学省初等中等教育局・視学委員
中央教育審議会 初等中等教育分科会
専門委員(生活、総合的な学習・探究
の時間WG、道徳WGの各委員)

主催 山梨大学 教育学部附属教育実践総合センター やまなし情報教育推進室
お問い合わせ 山梨大学 教育学部附属教育実践総合センター (事務室)

TEL 055-220-8325 Mail edjissen-as@yamanashi.ac.jp

はじめての 生成AI

vol.01

-毎回テーマを決めて生成AIについて解説します-



生成AIってなに？

最近よく聞く生成AI。「難しそう」って思っていませんか？実は仕組みはシンプルです。

これまでのAIと何が違うのか？その正体をサクッと解説します。

生成AIを一言でいようと？

すばり「学習したデータをもとに、新しいオリジナルを創造するAI（人工知能）」です。

これまでのAIは「正解を見つける」のが仕事でしたが、生成AIは「0から1を生み出す」ことができます。まるで「魔法のコックさん」のような存在です。



どうやって賢くなるの？



生成AIはインターネット上の膨大なデータを「教科書」として勉強しています。答えを出す仕組みはシンプルで、「この言葉の次には、どんなことがくるか？」という確率パズルを解いています。

編集後記

生成AIを身边に感じてほしい！授業や校務で生成AIを活用してほしい！との思いで作成しました。サクッと読んでいただけますと幸いです。（イラストはすべて生成AIが作成しています）

面倒な下書きはおまかせ！

白紙の状態から文章を考えるのは大変ですね。生成AIに「たたき台」を作ってもらい、それを人間が手直しすれば、作業時間は劇的に短縮されます。

こんな場面で使える！

- スピーチ原稿の作成
- メールの下書き
- 企画タイトルのアイデア出し など



例えば、結婚式のスピーチ原稿をつくりたいとき、「結婚式のスピーチの原稿を考えて。感動的な感じで」と入力すればOKです。

生成AIの主要サービスとして「Copilot」「ChatGPT」「Gemini」などがあげられます。無料プランでもかなりのことができます。まずはいろいろ試してみてください。

■2・3月の主な行事予定

2～3月の 行事予定

山梨大学教育学部の
関係行事を含みます

教師塾プログラム

○第2回教師力養成講座

2月3日（火） 13：10～16：20

○教員就職直前講座

2月16日（月） 15：00～17：00

教員採用試験対策講座

○学内模試3

2月26日(土) …2・3年、M1次年度教採受験者

○一次試験対策講座

2月5日（木）
2月9日（月）
2月10日（火）
2月12日（木）

…2・3年、M1次年度教採受験者

○二次試験プレ対策講座

2月17日（火）
2月18日（水）
2月19日（火）

…2・3年、M1次年度教採受験者

○実践力養成講座～今日的教育課題への対応～

2月5日（木）
2月9日（月）
2月10日（火）
2月12日（木）

…2・3年、M1次年度教採受験者

進路支援

○第2回 教員採用試験大学推薦説明会

2月3日（月）…2年、3年、M1

やまなし情報教育推進室

○第3回 山梨大学 やまなし情報教育推進室 フォーラム

3月9日（月）17：00～19：00

※開催日、時刻は、変更する場合があります